

## 安芸・長州・備後紀行

今まで、各地を訪れ、実感させられたのは、面積は広いが、**我が42万「豊田市」**がまことに田舎ということ。  
別に、恥じ入ることでもないが。

次に、  
どこのホテルでも、エレベーター乗降口に、  
**朝日新聞**の無料置きで、夜もあり、夕刊かと思うと朝刊のまま。  
今回でも、例外なく、全てのホテルで目にする。  
発行部数を維持するためらしく、全国規模の運動。  
真面目に新聞代を払っている購読者や、株主の反応は？  
当然、無視。

さて、神無月と霜月をまたいで、  
広島、岩国、宮島、呉、江田島、福山、鞆の浦、尾道へ。

### 広島

鎮魂の地である。通過は何度かしたが初めての訪れ。  
シャッターを押す気にはなれず、静かにお参りの気持ち。

31日から宿泊したが、  
夕方から、ハロウインの連中で、繁華街は大混雑。  
広島カープスが日本制覇をしていたら、  
ホテルの予約もできなかった。  
ゾンビーな仮装が多く、これも「刹那現象」。

展示館で悲惨な展示資料を目にして、  
当時の日本が核を有していたら、このような、一方的な、  
米国による殺戮と壊滅の横暴を受けなかったと思う。

今、また、今後、  
戦略核なき日本は、相手国の出方に翻弄され、  
無防備都市日本の、さらなる惨劇都市の追加で、  
歴史は繰り返すであろう。

No more Hiroshima!で将来を他者に委ねる日本と、  
Remember Pearl Harbor!で将来に備える歴史認識の差。

前者は米国が考案し、米国の裏を読めず、  
日本がありがたく頂戴。

平和は、念じたり、  
お題目として唱和をしておれば必ず来る、ものではない。  
寂聴や大江健三郎の書置きを目にする。  
お二人の商魂と商機取りの逞しさを感じさせ、  
犠牲者は浮かばれない。

**岩 国**（山口県、長州**岩国領**、大政奉還後に**岩国藩**）

錦帯橋は、想像以上の建設・構築の妙。  
その近くからロープウェイで近づける岩国城。  
山上駅で、下り最終のロープウェイは45分後と言われ、  
山道や舗道の狭い坂道を、  
速足と駆け足で、さらなる上の城へ。。  
たどり着いた時には、小生も家内もフラフラ。  
貴重な写真を添付。  
下り坂とはいえ、帰りも速足はきつい！  
だが、満足感と達成感はあるう。。。。。

**安芸の宮島**（**厳島神社**は、**女性の神様**）

広島からの車内で、ベルギー人男女と会話。  
両親と子供の6人で、日本を3週間観光。  
彼は、分厚いドイツ語の観光案内書を携行し、  
厳島神社の神様の名前を暗記中。  
奥さん主導家族の、真面目そうなエンジニア？  
彼の奥様と家内を交えての会話。

ここで気付いたのは、  
日本人は神社・仏閣へはソロソロと行くが、  
はたして、祀られている神々や本尊の尊名を知っているか？  
この暗記中のベルギー人を観察して自己批判。

厳島神社は、本殿に、女性の神様が三体祀られ、

市杵島姫命（いちきしまひめのみこと）が主神、  
田心姫命（たごりひめのみこと）と  
湍津姫命（たぎつひめのみこと）が合祀。

男性の神様は、本殿から廻廊を経て、  
西南の「客（まろうど）神社本殿」に五柱の客神扱い。

官幣中社とあり、帰宅後、「官幣」を調べると、  
福岡の宗像神社が「官幣大社」とあり、  
女神様は、上のお三体。  
厳島神社は欧米系の外国人が多く訪れていた。

そこで、外国人（欧州系）で混む「広島焼」の店でランチ。  
今までに経験したことのない名物の「不味さ」  
目の前での「広島焼」の焼き方も、職人技とは無縁。  
やたら、ヘラ捌きの音が高いだけ。

### 呉港と江田島

宿泊は、駅そばの「呉阪急ホテル」。お勧めでき、excellent。  
ミュージアムで、戦艦大和の1/10模型を見る。  
室内写真は、周囲の展示物が入り、全体像が写しにくく断念。  
これを見るのが、念願だった。

翌日、江田島の「海上自衛隊術科学校」を見学。  
展示館の写真と遺書に黙礼。若すぎる旅立ち。  
涙出る。

### 福 山

広島・三原間の「呉線」乗車をしたかった。やっと実現。  
山陽線の三原・尾道経由で福山へ着き、二泊予定。  
福山城は、福山駅から、道路を隔ててすぐそばに。  
鉄道が、往時の城郭内を走っている。

初代藩主の水野勝成公を前面に、「菊花展」を開催中。  
閉館準備中のところを、懇願して入城を許される。  
ゆっくり見学できないだろうからと、フリーパス。  
これまた、急階段を駆け上がり、城内を天守閣まで。  
家内は、途中でギブアップ。

かようにして、岩国でも、福山でも、60年後に、  
六甲の坂道で鍛えた足が役に立つ。

## 鞆の浦

古より海上交通の要として、  
歴史や文学にも華やかに登場しており、  
いつかは訪れたいと憧れの湊。  
福山駅前よりバスで30分少々。  
車内で二十代後半の大阪の青年と会話。  
鞆の浦に魅せられ、水彩画を。  
彼曰く「今時、こんなことしては、女の子にモテません」  
描いた後、船で尾道へ渡るとのこと。  
「将来は、画伯になられよ」と別れる。

鞆の浦港バス停で降りる。天気晴朗なれど、人まばら。  
定番の「常夜灯」へも行ったが、寂しい。  
出合った老人から、単刀直入、「鞆の浦をどう思う？」と言われ、  
「海が近くでいいところです」と言うと、

「人が減り、若いもんがいなくなり、漁師も年寄りばかり。  
3分の1の家が人住まずで貸家に。  
トイレも風呂も使えないので、貸家も借り手はない」  
との愚痴を聞く羽目に。

福禅寺の「對潮楼」からの海を隔てての、  
弁天島の風景には感動し飽きない。

竜馬も宿り、尊王攘夷の七卿の長州落ちで宿った旧家もある。  
が、このままだと、鞆の浦の持続性は難しい。

## 尾道

駅を出ると、「ベッチャー祭り」とかで大混雑。  
三日の最終日で、歩行も困難。  
天寧寺と千光寺公園の展望台で、やっとパチパチと撮影。  
尾道水道とその向こうの「向島（むかいしま）」の風景を、  
天候にも恵まれ満喫。海岸の遊歩道がいい。

**福山城**（初代城主：水野勝成、家康の母方の従兄弟）  
翌日、再訪して天守閣から遠景を楽しむ。  
菊花展も楽しめ、市役所の担当者からインタビュー。  
抽選で鉢植えの菊が当たり、「誰かにあげよう」と言うと、

我がマダムが、「こんな立派な菊は初めて、持って帰る！」  
持てないのは、ホテルのフロントへ寄付。

今、軒下に鎮座するが、確かに存在感がある。

#### 添付写真説明

- ① 広島市ホテル遠望「広島湾」
- ② 岩国市き吉香公園「十月桜」
- ③ 錦帯橋遠望
- ④ 岩国城
- ⑤ 厳島神社本殿
- ⑥ 江田島「海上自衛隊門柱」
- ⑦ 戦艦大和 公開資料より
- ⑧ 鞆の浦「常夜灯」
- ⑨ 鞆の浦「對潮楼より弁天島」
- ⑩ 尾道水道
- ⑪ 尾道水道と向島
- ⑫ 尾道城